

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-100975

(P2007-100975A)

(43) 公開日 平成19年4月19日(2007.4.19)

(51) Int. Cl.

F 2 4 F 1/00 (2006.01)

F I

F 2 4 F 1/00 3 7 1 A

テーマコード (参考)

3 L 0 5 1

審査請求 有 請求項の数 6 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2005-287311 (P2005-287311)

(22) 出願日 平成17年9月30日(2005.9.30)

(71) 出願人 000005049

シャープ株式会社

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

(74) 代理人 100077780

弁理士 大島 泰甫

(74) 代理人 100106024

弁理士 稗苗 秀三

(74) 代理人 100106873

弁理士 後藤 誠司

(74) 代理人 100135574

弁理士 小原 順子

(72) 発明者 吉川 一也

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

シャープ株式会社内

Fターム(参考) 3L051 BA03 BB02

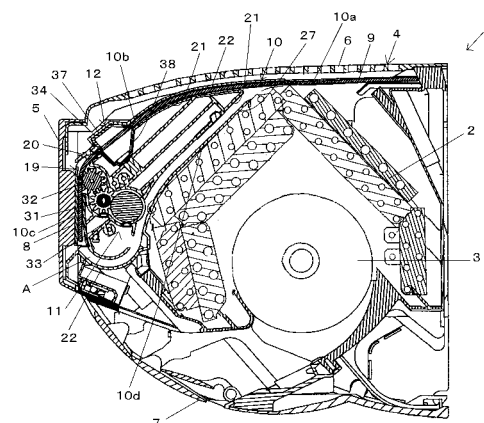
(54) 【発明の名称】 空気調節装置

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 フィルター清掃のメンテナンスが容易な空気調節装置を提供する。

【解決手段】 ケーシング4内の室内熱交換器2の前方上方側に形成された空間に、フィルター9移動のためのU字状の移動経路Aを設ける。移動経路Aは、ガイド手段10により形成され、ガイド手段10にフィルター9の両端側が保持される。U字状の移動経路Aの内側には駆動手段11が設けられ、フィルター9を前後方向に往復移動させる。また、移動経路Aの途中に清掃手段12が設けられ、フィルター9の清掃を行う。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

ケーシングの吸込口の内面側に沿って配された板状のフィルターと、該フィルターを清掃する清掃手段と、該清掃手段に対して前記フィルターをケーシング内で移動させるための移動経路とが設けられたことを特徴とする空気調節装置。

【請求項 2】

前記移動経路は、前記吸込口の内面側に沿って形成されると共に、その端部から U 字状に折り返されて形成されることを特徴とする請求項 1 に記載の空気調節装置。

【請求項 3】

前記移動経路の両側端にガイド手段が設けられたことを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の空気調節装置。 10

【請求項 4】

前記移動経路を形成する区画壁が、空気の流通を可能とする格子状に形成されたことを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれかに記載の空気調節装置。

【請求項 5】

前記フィルターを移動させる駆動手段が設けられたことを特徴とする請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載の空気調節装置。

【請求項 6】

前記フィルターは、フィルター網と、該フィルター網の四方に設けられたフィルター枠とから構成され、前記フィルター枠は、合成樹脂、ゴム又は紙からなることを特徴とする請求項 1 ～ 5 のいずれかに記載の空気調節装置。 20

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、フィルターの清掃を行うことができる空気調節装置に関する。

【背景技術】**【0002】**

空気調和機には、室内機のケーシングの吸込口の内面側に沿ってフィルターが設けられている。フィルターは、吸込口から吸引された空気中の塵埃を除去し、ケーシング内に塵埃が侵入するのを防ぐことができる。フィルターが汚れると、目詰まりにより空気調和機の空調能力が低下してしまうので清掃する必要がある。 30

【0003】

そこで、フィルター清掃を自動的に行うことのできる空気調和機がある。例えば、特許文献 1 には、吸込口と吹出口とを備えた本体内に、摺動自在に装着されたフィルターと、同フィルターを往復的に移動させる駆動装置と、前記フィルターが通過する通過口を前後に備え、前記フィルターと接触するように配設されたフィルター清掃部を内設したダストボックスとを設けてなる空気調和機が開示されている。フィルターを往復動させることにより、フィルターの全面をフィルター清掃部で自動的に清掃することができる。

【0004】

また、エンドレス型の輪状のフィルターと、フィルターを回転移動させる駆動装置と、フィルター清掃手段とを設け、フィルターを回転移動させることにより、フィルターの全面を清掃することのできる空気調和機もある。 40

【特許文献 1】特開 2005 - 188808 号公報**【発明の開示】****【発明が解決しようとする課題】****【0005】**

しかしながら、特許文献 1 記載の空気調和機では、フィルターが空気調和機の本体全面から飛び出してくるので、見た目が悪い。また、フィルターを飛び出させるためには、ケーシング前面を覆う前パネルに開口を設ける必要があり、見苦しい。 50

【 0 0 0 6 】

また、エンドレス型のフィルターの場合は、フィルター全長が長くなってしまう。また、輪状であるのでフィルターのみの着脱が困難である。

【 0 0 0 7 】

本発明は、上記課題に鑑み、フィルター清掃のメンテナンスが容易な空気調節装置を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 8 】

上記目的を達成するため、本発明は、ケーシングの吸込口の内面側に沿って配された板状のフィルターと、フィルターを清掃する清掃手段と、清掃手段に対してフィルターをケーシング内で移動させるための移動経路とが設けられたことを特徴とする空気調節装置である。フィルターをケーシング内で移動させる移動経路が確保されているので、フィルターを清掃手段に対して移動させても、フィルターがケーシング外へ突出しない。したがって、前パネルに開口を設ける必要がない。また、フィルターが板状であるので、ケーシングからフィルターのみを取り外しやすい。板状のフィルターであれば、少なくとも吸込口と対向する長さがあればいいので、フィルターの長さがエンドレス型のものに比べて短くてすむ。

【 0 0 0 9 】

移動経路の形態は、フィルターをケーシング内で移動させることができればよい。例えば、吸込口の内面側に沿って形成されると共に、その端部から内側又は外側へU字状に折り返して形成してもよいし、吸込口の内面側に沿って形成されると共に、その端部から内側又は外側へ渦状に巻き上げる形態としてもよい。

【 0 0 1 0 】

移動経路をU字状に折り返して形成する形態について、その折り返す位置は、ケーシングの前方、後方、側方のいずれであってもよいが、前方が好ましい。前方で折り返す形態であれば、フィルターを移動経路に挿入しやすい。また、前方に清掃手段を設けることができるので、フィルターの清掃手段への取付作業がしやすい。

【 0 0 1 1 】

移動経路の両側端にガイド手段が設けられる。ガイド手段としては、例えば、ケーシングに、内レール及び外レールを設け、内レールと外レールとの間にフィルターの側端を挟持させて誘導するようにしてもよいし、ケーシングに1本のレールを設け、フィルターの側端にレールと嵌合する溝を設けてもよい。

【 0 0 1 2 】

また、ケーシング内においてフィルター設置領域を区画するための区画壁が設けられる。区画壁は、格子状に形成し、空気の流通を可能とするのが好ましい。区画壁が、ガイド手段の外レールの一部を構成すれば、部品点数が多くならないですむ。

【 0 0 1 3 】

フィルターを移動させる駆動手段が設けられる。駆動手段によりフィルターを移動させれば、自動的に清掃を行うことができる。

【 0 0 1 4 】

フィルターは、フィルター網と、フィルター網の四方に設けられたフィルター枠とから構成される。フィルター枠の素材は限定されるものではないが、合成樹脂、ゴム又は紙等の可撓性のある素材が好ましい。フィルターが屈曲しやすいので、移動経路を移動しやすくなる。

【発明の効果】

【 0 0 1 5 】

本発明によると、フィルターをケーシング内で移動させる移動経路が設けられているので、フィルターを移動させてもフィルターがケーシング外へ突出せず、見栄えが悪くなることはない。前パネルに開口を設ける必要もない。また、フィルターが板状であるので、ケーシングからフィルターのみを取り外しやすい。フィルターの全長は、エンドレス型の

ものに比べて短くてすむ。

【発明を実施するための最良の形態】

【0016】

以下、本発明の実施形態を図面に基づいて説明する。図1は本実施形態の空気調和機の室内機の斜視図、図2は同じく空気調和機の断面図、図3は図2の要部拡大図、図4は前パネルを開いた状態の空気調和機の断面図、図5は本実施形態の空気調和機の要部を示す斜視図、図6は同じく空気調和機の要部を示す斜視図、図7はフィルターの斜視図、図8は図7の要部拡大図、図9はフィルターの正面図、図10はA-A断面図、図11はB-B断面図である。

【0017】

本空気調和機は、室内機1と室外機（図示せず）とから構成される。室内機1は、熱交換器2や室内ファン3等が内装されるケーシング4を備える。図1～4に示すように、ケーシング4は、その前面開口を開閉自在に支持された前パネル5と、ケーシング4の天面側に、室内空気を吸い込むために格子状に形成された吸込口6と、ケーシング4の前面下部に、熱交換された冷暖気を吹出するために形成された吹出口7とを備える。ケーシング4の前面開口は、後述するフィルター9をケーシング4内へ装着するための開口となる。前パネル5は、その上部がケーシング4の側面に回動自在に固定され、下部を上方へ引き上げることにより、ケーシング4前面を開放することができる。前パネル5の内面には、凸状に隆起した当接部8が形成される。この当接部8は、後述するガイド片19の前板24と対向する部分に形成され、前パネル5の閉成時において前板24と当接可能とされる。

【0018】

図2に示すように、ケーシング4内には、吸込口6と対向する位置に配された室内熱交換器2と、室内空気を吸込口6から吸い込み、室内熱交換器2で熱交換された空気を吹出口7から吹出するための室内ファン3とが設けられる。室内熱交換器2は、逆V字状に形成され、その前方上方側に略三角形の空間ができる。この空間からケーシング4の吸込口6の内面に沿う位置にかけて、フィルター9移動のためのU字状の移動経路Aが設けられる。移動経路Aは、ガイド手段10により形成され、ガイド手段10にフィルター9の両端側が保持される。U字状の移動経路Aの内側には駆動手段11が設けられ、フィルター9を前後方向に往復移動させる。また、移動経路Aの途中に清掃手段12が設けられ、フィルター9の清掃を行う。

【0019】

フィルター9は、右フィルターおよび左フィルターからなり、吸込口6から吸い込んだ空気中のごみや塵を除去する。図7及び図9に示すように、フィルター9は、フィルター網13と、フィルター網13の四方を支持するフィルター枠14とから構成される。フィルター枠14は、側方を支持する縦枠14aと、上方及び下方を支持する横枠14bとから構成される。

【0020】

図8及び図10に示すように、縦枠14aは、側面視が波形状に形成される。波形状に形成することにより、縦枠14aの内面側には、後述する駆動手段11の従動ギア32と噛み合わせ可能な凹凸が縦方向（長手方向）に形成される。従動ギア32の回転により、フィルター9が前後に移動可能とされる。また、波形状とすることにより、凸部14cの外側面に溝部14dが形成され、凸部14cが肉厚とならずにすむ。したがって、フィルターが縦方向に撓みやすくなるため、フィルター9をU字状に折り返しやすくなる。

【0021】

縦枠14aの内面側に形成される凹凸面の形状は、従動ギア32の歯と噛み合わせが可能であればよいが、凹凸のピッチと従動ギア32の歯のピッチとを同一にするのが好ましい。歯飛びをより効果的に防止することができる。

【0022】

また、フィルター枠14内を格子状に区切るようにリブ15が設けられる。リブ15は、フィルター網13と固定され、フィルター網13を支持する。フィルター9の反りや波

10

20

30

40

50

うちを防止できる。リブ 15 は、縦方向に配される縦リブ 15 a と、横方向に配される横リブ 15 b とから構成される。縦リブ 15 a は肉薄に形成され、横リブ 15 b は縦リブ 15 a に比べて肉厚に形成される。この構成により、フィルター 9 は、横方向の剛性を維持しつつ、縦方向には容易に屈曲可能とされる。また、図 8 に示すように、横リブ 15 b とフィルター枠 14 の縦枠 14 a との間にはスリット 16 が設けられ、両者は不連続とされる。他の部分よりも剛性が高い縦枠 14 a と、横リブ 15 b とを不連続とすることにより、フィルター 9 の縦方向における屈曲性を保持できる。また、フィルター枠 14 の素材としては、可撓性のあるものであればよく、ポリプロピレン、ポリエチレンテレフタレート (PET)、軟質樹脂などの合成樹脂、ゴム、紙のいずれを用いてもよい。

【0023】

10

フィルター網 13 の網素材としては、埃や塵などを除去するプレフィルターと室内の臭いを除去するための脱臭フィルターなどを組み合わせたものか、あるいはいずれか単体のフィルターでも構わない。

【0024】

ガイド手段 10 は、ケーシング 4 の側壁 17 の内面側、ケーシング 4 の略中央を前後方向に橋渡しする中央体 18 の両側面及びガイド片 19 に設けられる。ガイド手段 10 は、移動経路 A の内周側をガイドする内レール 21 と、移動経路 A の外周側をガイドする外レール 22 とから構成される。ガイド手段 10 は、ケーシング 4 の吸込口 6 に沿った位置 10 a から、連結部分 10 b 及び前パネル 5 に沿った位置 10 c を介し、その端部から後方へ折り返された折り返し位置 10 d に至るように、U 字状に形成される。また、ガイド手段 10 の前パネル 5 に沿った位置 10 c と、その上流側に位置する連結部分 10 b とはそれぞれ略直線状に形成されており、両者の境目で折曲している。このように形成されたガイド手段 10 の内レール 21 と外レール 22 との間にフィルター 9 の端部を挟持すれば、フィルター 9 の移動が略 U 字状となるように誘導することができる。なお、移動経路 A の長さは、フィルター 9 を下流側へ移動させたときに、フィルター 9 の上流側の端部が清掃手段 12 と対向する位置まで達することのできる長さを有するのが好ましい。フィルター 9 の上流側の端部まで清掃することができる。

20

【0025】

また、ケーシング 4 の側壁 17 及び中央体 18 の前端の一部が切除され、ガイド手段 10 のうち、前パネル 5 に沿った位置 10 c が分断される。この切除部分にガイド片 19 が設けられる。ガイド片 19 は、清掃手段 12 よりもケーシング 4 の前方側に設けられる。ガイド片 19 は、ケーシング 4 の側壁 17 又は中央体 18 と平行に配される側板 23 と、側板 23 の前端から折曲してケーシング 4 前面に対向する前板 24 とから構成される。この側板 23 の内面に、内レール 21 及び外レール 22 が形成され、ガイド手段 10 の前パネル 5 に沿った位置 10 c を形成する。

30

【0026】

また、ガイド片 19 の側板 23 の上部は後方側へ延設されて、後述する従動ギア 32 の軸に回動自在に支持される回動部 25 が形成される。この構成により、ガイド片 19 は、図 4 に示すように、回動部 25 を中心として、下部を手前に引き上げることができる (開回動)。なお、この回動部 25 の開回動は、手動で行ってもよいが、フィルター 9 の平面状に戻ろうとする復元力により自然に持ち上がるようにするのが好ましい。ガイド片 19 を開回動させることにより、ガイド手段 10 が分断され、移動経路 A が前方に開口する。この開口から移動経路 A にフィルター 9 を簡単に挿入することができる。

40

【0027】

また、この回動部 25 は、ガイド手段 10 の前パネル 5 に沿った位置 10 c と、その上流側に位置する連結部分 10 b との境目である折曲部分に形成される。ガイド手段 10 の前パネル 5 に沿った位置 10 c と、その上流側に位置する連結部分 10 b とは、それぞれ略直線状に形成されているので、ガイド片 19 を開回動させて両者を直線状に配することができる。さらにまた、ガイド片 19 の開回動時に、ガイド片 19 に形成されたガイド手段 10 (前パネル 5 に沿った位置 10 c) と、ケーシング 4 に形成されたガイド手段 10

50

(連結部分 10b) とが直線状に位置した時点で止まるように、ガイド片 19 の開回動を規制するストッパー 20 が、ガイド片 19 の上方に設けられている。ガイド手段 10 を直線状に配すれば、フィルター 9 を挿入しやすい。

【0028】

また、ガイド片 19 の回動部 25 と対向する部分には、内レール 21 が形成されていない。前パネル 5 を閉めると、前パネル 5 の当接部 8 がガイド片 19 の前板 24 に当接し、ガイド片 19 が後方に押されて閉回動し、ガイド片 19 が閉姿勢となる。このとき、ガイド片 19 の内レール 21 の一部が形成されていないと共に、ガイド片 19 と対向して駆動ギア 31 が設けられているので、ガイド片 19 と駆動ギア 31 とでフィルター 9 を挟み込み、自動的にフィルター枠 14 の縦枠 14a の凹凸と駆動ギア 31 の歯とを噛み合わせるこ
10

【0029】

さらにまた、ガイド片 19 の側板 23 の下部は後方側へ延設され、係止部 26 が設けられる。係止部 26 の内面側には、突出した凸部 27 が形成され、ケーシング 4 の側壁 17 または中央体 18 の壁面に設けられた係止穴 28 に嵌合し、係止される。ガイド片 19 をケーシング 4 に固定することができる。

【0030】

ケーシング 4 内において、フィルター 9 の設置領域を区画するための区画壁 29 が設けられる。室内熱交換器 2 にフィルター 9 が接触するのを防げる。また、前パネル 5 開放時に誤って使用者が触れるのを防ぐことができる。区画壁 29 は、空気の流通を可能とするために格子状に形成される。区画壁 29 は、ガイド手段 10 の外レール 22 の一部を構成する。詳しくは、区画壁 29 は、ガイド手段 10 の折り返し位置 10d の外レール 22 を構成する。このように、区画壁 29 をガイド手段 10 として併用することにより、部品点数が多くなりません。
20

【0031】

駆動手段 11 は、U 字状のガイド手段 10 の内レール 21 の内側であって、ガイド片 19 と対向する位置に設けられる。駆動手段 11 は、駆動源であるモーター 30 と、モーター 30 の出力軸に連結されて回転する駆動ギア 31 と、駆動ギア 31 と噛み合って回転する従動ギア 32 と、駆動ギア 31 と噛み合って回転するローラーギア 33 とから構成される。なお、ゴムローラーギア 33 の回転軸には、図示しないギアが取り付けられており、これによりローラーギアは回転可能とされる。従動ギア 32、駆動ギア 31、ローラーギア 33 の順に上方から配置される。従動ギア 32 は、フィルター枠 14 の凹凸と噛み合わせることにより、フィルター 9 を前後移動可能とする。また、ローラーギア 33 は、そのローラー面で、U 字状に折り返されてきたフィルター 9 と接触して摩擦によりフィルター 9 の移動を補助する。駆動手段 11 は、ガイド片 19 と対向する位置に設けられているので、ガイド片 19 を開回動させてフィルター 9 を移動経路 A に挿入した後、ガイド片 19 を閉成する操作を行うだけで、フィルター枠 14 に形成された凹凸と従動ギア 32 の歯とを簡単に噛み合わせることができる。
30

【0032】

清掃手段 12 は、フィルター 9 の移動経路 A の途中であって、ケーシング 4 の吸込口 6 の前端に対向する位置よりも下流側に設けられる。吸込口 6 に対向しているフィルター 9 の全面を清掃手段 12 により清掃することができる。また、清掃手段 12 は、ガイド手段 10 の連結部分 10b に設けられる。連結部分 10b は直線状に形成されているので、清掃手段 12 にフィルター 9 を取付けやすい。さらに、清掃手段 12 がケーシング 4 の前面側に設けられるので、清掃手段 12 にフィルター 9 を取付けやすい。
40

【0033】

清掃手段 12 は、吸引部 34 と、吸引装置 35 と、吸引部 34 及び吸引装置 35 を連結するための筒状の吸引ダクト 36 とから構成される。吸引部 34 は、断面形状が略コの字状の上ケース 37 及び下ケース 38 から構成され、上ケース 37 及び下ケース 38 の凹部
50

を対向させた状態で、ケーシング 4 の前方を横方向に橋渡しするようにしてケーシング 4 に固定される。上ケース 3 7 と下ケース 3 8 との間には隙間があり、この隙間をフィルター 9 が走行可能とされる。上ケース 3 7 及び下ケース 3 8 とフィルター 9 表面との間は、きわめて狭い間隔を保っている。吸引部 3 4 の左右両端は開口されている。

【 0 0 3 4 】

吸引装置 3 5 は、吸引ファン（図示せず）と、吸引ファンの周囲を覆う吸引カバー 3 9 とから構成される。吸引カバー 3 9 には、吸引口（図示せず）と排気口 4 0 とが開口され、この吸引口と吸引部 3 4 の開口とが吸引ダクト 3 6 で連結される。排気口 4 0 は、室外と連通するダクト（図示せず）に連結される。吸引ファンを回転させることにより、吸引力が発生し、吸引部 3 4 でフィルター 9 の塵埃を吸引することができる。吸引した空気は排気口 4 0 より外部に排気される。

10

【 0 0 3 5 】

また、上ケース 3 7 及び下ケース 3 8 のそれぞれの側壁の間隔は、フィルター 9 の横リブ 1 5 b の間隔と略同一に設定される。上ケース 3 7 及び下ケース 3 8 の側壁と、横リブ 1 5 b とが重なった場合、吸引部 3 4 内が略密閉した空間となるので、吸引力がアップする。なお、清掃手段 1 2 として、吸引式のものをを用いたが、ブラシによるかきとり式ののものであってもよい。

【 0 0 3 6 】

以上の構成によると、フィルター 9 の清掃時には、駆動手段 1 1 によりフィルター 9 が前方に移動される。このとき、ケーシング 4 前方で U 字状に折り返すようにガイド手段 1 0 により移動経路 A が形成されているので、前方移動に伴い、湾曲しながらフィルター 9 の前端が後方側（下流側）へ誘導される。このように、フィルター 9 をケーシング 4 内で移動させる移動経路 A が設けられているので、フィルター 9 がケーシング 4 外へ突出しない。したがって、清掃時に前パネル 5 を開放する必要もない。また、フィルター 9 が板状であるので、ケーシング 4 からフィルター 9 のみを取り外しやすい。

20

【 0 0 3 7 】

また、フィルター 9 のフィルター枠 1 4 が波状に形成されているので、フィルター枠 1 4 が撓みやすくなり、U 字状に折り返しやすい。したがって、湾曲した移動経路 A に追従させることができる。

【 0 0 3 8 】

さらにまた、ガイド手段 1 0 の一部は、回動自在なガイド片 1 9 に設けられているので、ガイド片 1 9 を開回動させることにより、ガイド手段 1 0 が分断され、移動経路 A が前方に開口する。この開口からフィルター 9 を挿入することができるので、フィルターを挿入しやすい。

30

【 0 0 3 9 】

また、ガイド片 1 9 を開回動させることにより、ガイド片 1 9 に形成されたガイド手段 1 0（前パネル 5 に沿った位置 1 0 c）と、ケーシング 4 に形成されたガイド手段 1 0（連結部分 1 0 b）とが、直線状に配されるので、フィルター 9 をより簡単に挿入することができる。また、清掃手段 1 2 は、直線状に形成されたガイド手段 1 0 の連結部分 1 0 b に設けられているので、清掃手段 1 2 にもフィルター 9 を挿入しやすい。

40

【 0 0 4 0 】

また、前パネル 5 を閉める際には、前パネル 5 の当接部 8 がガイド片 1 9 の前板 2 4 に当接し、ガイド片 1 9 が後方に押されて閉回動し、ガイド片 1 9 が閉姿勢となる。このとき、ガイド片 1 9 と対向して駆動ギア 3 1 が設けられているので、自動的にフィルター枠 1 4 の凹凸と駆動ギア 3 1 の歯とが噛み合わされる。したがって、前パネル 5 を閉めるだけで、ガイド片 1 9 の閉成と駆動ギア 3 1 との装着とを連動して行えるので、フィルター 9 の装着が簡単である。

【 0 0 4 1 】

また、ガイド片 1 9 は上方へ回動するよう付勢されるようにしておき、前パネル 5 の開閉とともに回動するような構成としておけば、ガイド片 1 9 を引き上げたり押し込んだり

50

することなく、前パネルの開閉動作のみでフィルター 9 とギア 3 2 と噛合させることができる。

【 0 0 4 2 】

なお、本発明は上記実施形態に限定されるものではなく、本発明の範囲内で上記実施形態に多くの修正及び変更を加え得ることは勿論である。例えば、上記の実施形態では、空気調和機としては、室内機 1 と室外機とが分離したセパレート型のものに限らず、一体型のものであってもよい。また、空気調節装置としては、空気調和機に限らず、空気清浄機、イオン発生装置、除湿機、加湿機あるいはファンヒータのいずれであってもよい。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 4 3 】

【図 1】本実施形態の空気調和機の室内機の斜視図

【図 2】同じく空気調和機の断面図

【図 3】図 2 の要部拡大図

【図 4】前パネルを開いた状態の空気調和機の断面図

【図 5】本実施形態の空気調和機の要部を示す斜視図

【図 6】同じく空気調和機の要部を示す斜視図

【図 7】フィルターの斜視図

【図 8】図 7 の要部拡大図

【図 9】フィルターの正面図

【図 10】A - A 断面図

【図 11】B - B 断面図

【符号の説明】

【 0 0 4 4 】

A 移動経路

1 室内機

4 ケーシング

5 前パネル

8 当接部

9 フィルター

10 ガイド手段

11 駆動手段

12 清掃手段

13 フィルター網

14 フィルター枠

15 リブ

17 側壁

18 中央体

19 ガイド片

20 ストッパー

21 内レール

22 外レール

23 側板

24 前板

25 回動部

26 係止部

27 凸部

28 係止穴

29 区画壁

30 モーター

34 吸引部

10

20

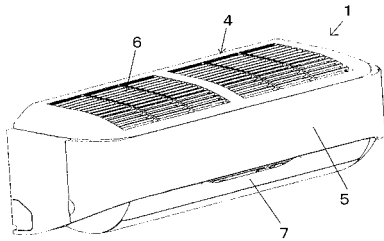
30

40

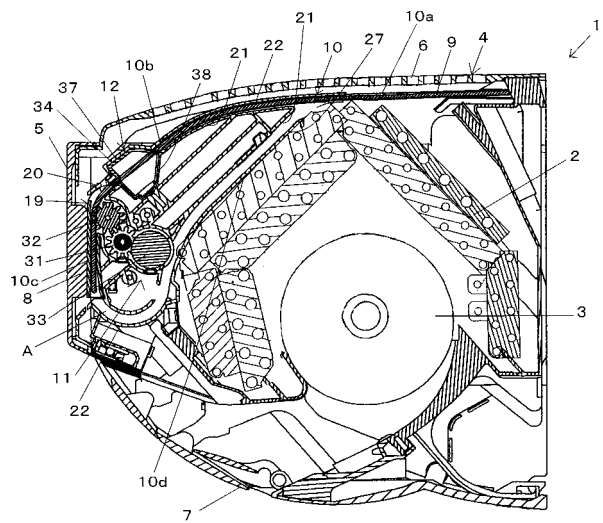
50

3 5 吸引装置
3 6 吸引ダクト

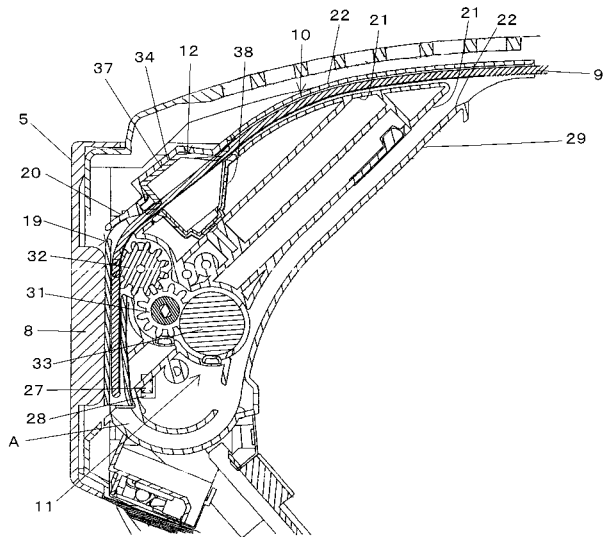
【 図 1 】



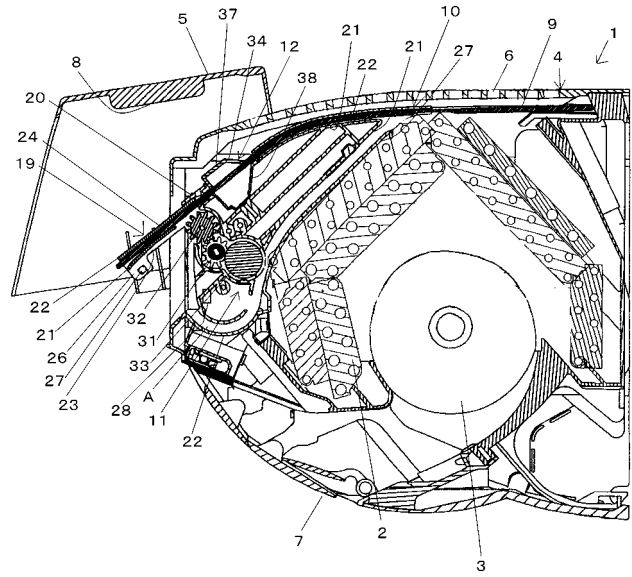
【 図 2 】



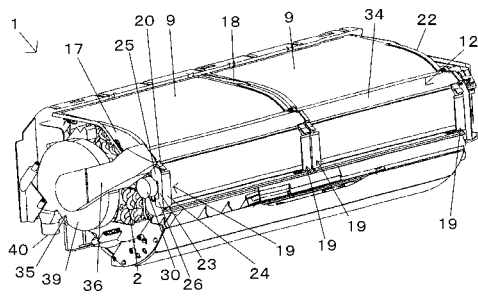
【図 3】



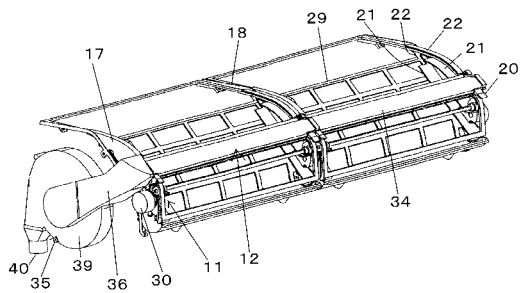
【図 4】



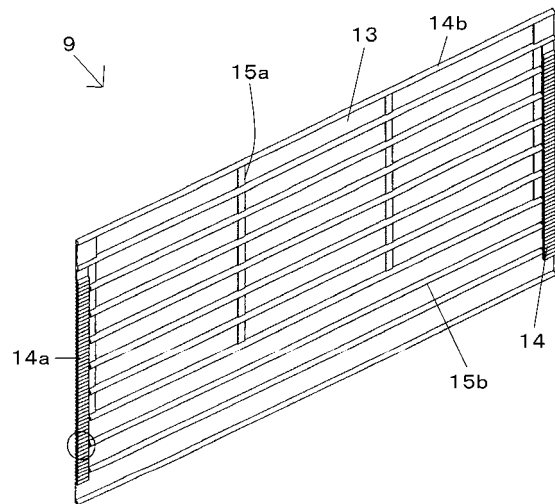
【図 5】



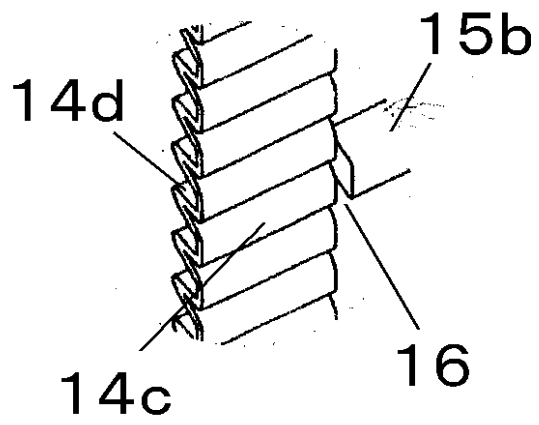
【図 6】



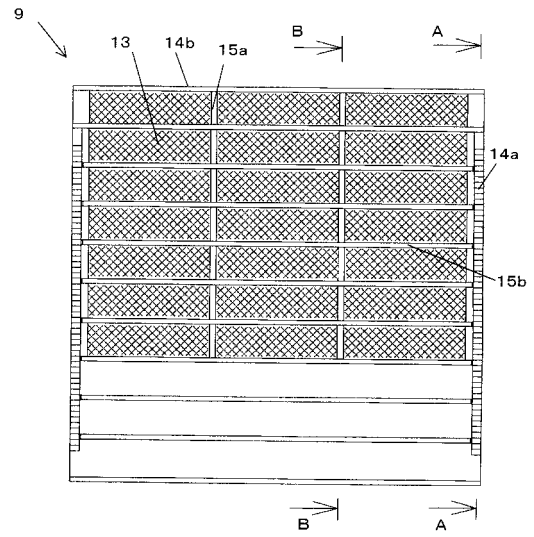
【図 7】



【図 8】



【図 9】



【図 10】



【図 11】

